

令和 6 年度第 1 回市川市社会福祉審議会  
地域福祉専門分科会 会議録

1. 開催日時

令和 7 年 3 月 21 日(金) 午前 10 時 00 分～午後 0 時 00 分

2. 開催場所

市川市役所第 1 庁舎 5 階 第 3 委員会室

3. 出席者

【委員】

森高委員（会長）、山崎委員（副会長）、岩松委員、岸田委員、佐藤委員、  
坪井委員、出井委員、松尾委員、村山委員

【市川市】

宮本地域共生課長ほか

【市川市社会福祉協議会】

山本地域福祉・ボランティアセンター所長、片岡 CSW、菊地 CSW

【がじゅまる＋】

市川市よりそい支援事業がじゅまる＋ 総合センター長 朝比奈 ミカ

4. 傍聴者

0 名

5. 議事

(1)令和 6 年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の報告

(2)令和 6 年度多機関協働事業等の報告

(3)その他

6. 配付資料

・会議次第

・資料 1-1 コミュニティソーシャルワーカー活動実績比較  
(令和 5 年度～6 年度)

・資料 1-2 令和 6 年度「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」  
進捗状況について

・参考資料 1-1 重層的支援体制整備事業(市川市よりそい支援事業)のあらまし

・参考資料 1-2 生活困窮者支援等のための地域づくり事業 業務委託の内容

(仕様書抜粋)

- ・資料2 市川市よりそい支援事業 がじゅまる+の取り組み
- ・当日配布資料 相談支援と地域づくりの重なり合い

## 7. 議事録

(午前 10 時 00 分開会)

| 発言者    | 発言内容                                                                                                                                                                                        |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <b>(1) 令和6年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の報告</b>                                                                                                                                                      |
| 森高会長   | まず、議題(1)令和6年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の報告について、事務局より説明をお願いいたします。                                                                                                                                   |
| 地域共生課長 | <b>(資料1-1, 1-2, 参考資料1-1, 1-2に基づき説明)</b>                                                                                                                                                     |
| 森高会長   | ただいま所管課より、当該事業のうち、(1) 地域住民のニーズ・生活課題の把握から(3) 行政や地域住民、NPO等の地域づくりの担い手がつながるプラットフォームの展開までの実績及び評価についてご説明をいただきました。<br>続きまして(4)①地域住民への個別支援等、(4)②地域づくりに向けた支援について、事業受託者である市川市社会福祉協議会よりご説明いただきたいと思います。 |
|        | <b>※非公開（本報告に関する質疑等を含む）</b>                                                                                                                                                                  |
| 森高会長   | ただいまコミュニティソーシャルワーカーより説明がありました。全体的な内容について委員の皆様からご意見・ご質問等はございますでしょうか。                                                                                                                         |
| 出井委員   | 資料1-1について、圏域ごとに増え方に差がありますが、この背景についてお聞かせください。                                                                                                                                                |
| 地域共生課  | 資料1-1の件数については、それぞれの地域での会議開催件数が異なります。例えば西部圏域の国府台地区で言いますと、地域ケアシステム推進連絡会が他の地区であれば毎月開催されている一方、当該地区では年に1,2回程度の開催でした。しかし、今年度はコミュニティソーシャルワーカーの働きかけもあり、会議開催件数が増えております。                              |
| 村山委員   | お手伝いをしてくれる方はいる一方、リーダーになってくれる方がなかなか見つからないということはどの地域でもあるかと思います。行政、社会福祉協議会などが活動を始めた際、それを地域に繋げていくために、ど                                                                                          |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 菊地 CSW | <p>のようにして地域の中でリーダーを見つけていくか、何か考えがあればお聞かせください。</p> <p>また、支援が必要な際にSOSを出せない方も多いと思います。特に子どもに関しては学校との関りが深いと思いますが、教育関係者との関係性をどのように構築していくかについての考えもお聞かせいただければと思います。</p> <p>私たちもいろいろな活動をする中で、例えば地域の方が何か始めたいと言ったときに、私たちが第一に率先してやるということは考えておりません。コミュニティソーシャルワーカーが率先してやるというよりは、地域の方がやりたいと言ったときにどのようにサポートをしていくかといった伴走型としてスタートすることが多いです。例えば行政や社会福祉協議会のできることをお示ししたり、近隣の同じ想いを抱いている方同士を繋げていくということが私たちの力の強さだと考えております。例えば子ども食堂に関しても、開設したいけど場所がないという方と場所があるけど高齢化でできないという方を繋げた結果、100名を超える方が参加されることも食堂の実施が実現できました。</p> <p>このように、同じ想いを抱いた人達を繋げていくということが肝だと考えております。</p> |
| 片岡 CSW | <p>やはりリーダーとして責任を持つことは大変だという相談を寄せられることが多いです。そのような時には具体的にどういったことが大変なのか話を聞いたりします。すると体調が悪い時でも行かなければいけないことが大変という意見もあり、そのような時には「1人でやるのではなく複数人でやった方がいいですね」といった話をしたりします。また、負担を減らすような提案をすることもあります。例えば地域で体操ができる場所を作りたいといった話があった際、ラジオ体操であればみんなが踊ることができて、講師の人が前に出て踊らなくてもよく、スイッチ1つ押せばいいのでそこまで責任を負う必要もありませんよといった、これくらいならできそうと思っていただけるような提案をすることもあります。</p> <p>また、教育関係者との関係性については、不登校問題について地域課題として寄せられることがあり、不登校児の保護者の集まりを教育委員会で企画されているとのことなので、将来的にはそのような場にも参加できればと考えております。</p>                                                                                |
| 岸田委員   | <p>地域の新しい共生社会が生まれつつあるとお話を聞いていて感じました。そういった意味では行政や地域住民、NPO等の地域づくりの担い手がつながるプラットフォームの展開がうまく進んでいると感じます。しかしながら評価がBとなっている圏域がほとんどなので、もう少し評価をあげてみてもいいように感じました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域共生課長 | <p>コミュニティソーシャルワーカーをはじめ、行政職員が積極的に地域づくりに関わり、また地域住民と直接話をする中で地域の要望や悩みを把握し、それに対して真摯に取り組んだことが件数の増加に繋がり、新たな課題の把握や地域づくりに結びついたかと思います。この活動をさらに広い地域で取り組めたらと考えており、コミュニティソーシャルワーカーや行政職員の人数も限られておりますが、その中でできることに取り組んでいくということが、今後の地域づくりに向けた支援に繋がると考えております。</p>                           |
| 岩松委員   | <p>この事業を現場の地域住民と進めているということがまだまだ知られていないと思います。地域共生社会の実現に向け、住民ひとりひとりが互助の精神を持ってお互いに助け合うためにこのような制度ができたので、その意識を持っていただくためにも、啓発に力を入れていただきたいと思います。</p> <p>また、地域の意見を聞くことも大切ですが、それに対して対策を立てることは難しいことだと思います。地域課題は住民ひとりひとりの生活にかかわってくるものですので、対策を立てるためにもこのような制度についてより広めていただければと思います。</p> |
| 地域共生課長 | <p>どんなにいいことをしていてもそれが広がらないと限られた地域、人だけの話になってしまいますので、行政としても周知活動に力を入れていきたいと思います。</p> <p>また、アンケートなどで地域の意見を聞くだけでなく、対策をどのように立てるかについても、1つの課題に対して関係する課が複数ございますので、連携して課題解決に取り組みたいですと考えております。</p>                                                                                    |
| 坪井委員   | <p>周知活動に力を入れたいといったお話がありましたが、大切なことだと思います。イベントを通じたPRによる啓発活動等を経て、令和5年度から令和6年度にかけての相談件数等の増加につながっているのだと思います。</p> <p>また、東部地区ではお互い様事業が2つの自治会で立ち上がりました。この活動がうまくいき、ほかの地区にも影響されればいいなと感じております。</p>                                                                                   |
| 佐藤委員   | <p>今回の報告を聞いてみて、やはり地域住民の中ではこういった取り組みが行われているといったことが知られていないと感じました。また、資料1-1について、南部地域がこれだけ件数が増えている理由としては、南行徳地域共生センターが開設されたからでしょうか。また、今後活動を広げていくといった考えはございますか。</p>                                                                                                              |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 菊地 CSW | <p>もちろん南行徳地域共生センターができたこともございます。また、活動をしたい方が繋がり、施設へ見学に来られた団体もあり、そのエリアでこども食堂が増えました。その立ち上げ支援のために何度か足を運んだこともあり活動件数が増えております。</p> <p>今後の展望としては、妙典にぴあぱく妙典COCOというこども施設ができましたので、その施設内でもこども食堂の実施ができないか検討しております。ただこども食堂を作るだけでなく、住民の方にも来ていただけるように立ち上げに向けて動いておりますので、今後活動件数が増える予想しております。</p> <p>地域の方が集まりやすい場所を発掘すればするほど活動も増えていくと考えております。</p> |
| 山崎委員   | <p>参考資料1-2の業務内容(1)の②の中に、私どものボランティア協会運営委員会がございます。委員会は2カ月に1度開催しており、市川市社会福祉審議会やコミュニティソーシャルワーカー等にいらしていただいておりますが、話の内容がボランティアに特化してしまっているのもので、地域住民の生活課題の把握についても取り入れていきたいと思いました。</p>                                                                                                                                                  |
| 森高会長   | <p>コミュニティソーシャルワーカーに質問です。今なにか困っていることはありますか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 菊地 CSW | <p>もっとたくさんの現場に足を運びたいと考えており、先日もぴあぱく妙典が混んでいるとの連絡を受けたのですが、体がついていきません。いろいろな活動報告をいただいているのに仕事量の関係からすべてに寄り添うことができず、取りこぼしているのではないかという想いです。周知も含めていっぱいいっぱいになっている現状においては、人員不足という言葉につきますかと思います。</p>                                                                                                                                       |
| 片岡 CSW | <p>会議や地域のイベントが重なってしまうことがあります。また、現場に行けば行くほど記録を作らなければならない、大変です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 岩松委員   | <p>問題点を発見するのはいいことですが、出てきた地域課題に対してどこが主導で対策を立てていくかといった具体的な道筋が見えません。すべて住民主体というわけにはいかないと思いますが、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を進めていく中でどのような道筋を立てているのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                |
| 事務局    | <p>アウトリーチ等を通じた継続的支援事業については、議題(2)にてご説明をさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 森高会長  | <p>地域課題を出していただいた後、どのようにして繋げていくかといったことを考えていくと同時に、解決ができない課題に対しては、他のエリアや市全域で解決していくための道筋をこれから考えていかなければいけないと思います。その第一歩として、地域住民の声を受けとめることができたというのは良い成果だと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
| 岩松委員  | <p>(3)「行政や地域住民、NPO等の地域づくりの担い手がつながるプラットフォームの展開」については、具体的な内容が見えてきません。だから他の項目に対して評価が低くなっているのではないのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 地域共生課 | <p>事業としてのアウトリーチについては次の議題で説明がありますが、コミュニティソーシャルワーカーの業務としては現場に行き、現場の声を吸い上げるといった形のアウトリーチがあると思います。また、プラットフォームの展開については、地域ケアシステム推進連絡会が地域のプラットフォームになりますが、それ以外の小さなプラットフォームも地域の中にはいくつもあるかと思っています。そのようなところにコミュニティソーシャルワーカーが出向き、意見を吸い上げてどのように展開していくかといったところが今後の課題になるかと思いますが、このようにアウトリーチとしてコミュニティソーシャルワーカーが地域に寄り添い対策を考える、また、コミュニティソーシャルワーカーだけでなく地域住民が主体となって考えることに対してコミュニティソーシャルワーカーがサポートしていくといったところが今後の展開だと考えております。</p> |
| 岩松委員  | <p>コミュニティソーシャルワーカーにそのような時間的余裕はないと思います。困りごとを聞くだけでも大変です。地域活動に係る団体はたくさんあります。NPOや自治会、高齢者クラブもそうです。そのような団体に対して施策の内容が伝わっていないように感じます。現状の施策をこういった団体に対して啓発を行い、協力をしようといった意識を持たせる必要があると思います。</p>                                                                                                                                                                                                                       |
| 山崎委員  | <p>地域の拠点でも相談窓口を開いておりますので、そこも1つのプラットフォームではないかと思っています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 森高会長  | <p>生活に困っている方に対する支援もありますし、地域としてどのように支援をしていくかが見えないことも困りごとの1つです。それを進めるうえで、啓発が細かいところまで行き届いていないというのももっともな意見です。あらゆる困りごとはみんなで考え解決しなければいけないので、他人ごとにしないように声掛けができればいいと思います。</p> <p>コミュニティソーシャルワーカーについても積極的に動いていただき、ご報告のとおり成果があがってきております。</p>                                                                                                                                                                         |

|                  |                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | <p>令和6年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の実施内容等について、概ね適正に実施されたいということによろしいでしょうか。</p> <p>(意義なし)</p> |
| 森高会長             | <p>それでは、ご異議がないことを持ちまして、本分科会における事業評価といたします。</p> <p>(2) 令和6年度多機関協働事業等の報告</p>          |
| 森高会長             | <p>それでは、議題(2)令和6年度多機関協働事業等の報告についてです。事務局より、説明をお願いします。</p>                            |
| 地域共生課長<br>がじゅまる+ | <p>(資料2に基づき説明)</p>                                                                  |
| 森高会長             | <p>ただいま、担当より説明がありました。<br/>それでは委員の皆様からご質問やご意見ございますでしょうか。</p>                         |
| 森高会長             | <p>スタッフは全部で何名ほどで活動されていますか。</p>                                                      |
| がじゅまる+           | <p>3事業合わせて配置は6名です。非常勤等も含めると8名体制で事業を実施しております。</p> <p>(3) その他</p>                     |
| 森高会長             | <p>次に議題(3)その他に移りますが、本日「その他」の議題はありますでしょうか。</p>                                       |
| 事務局              | <p>本日、その他の議題はございません。</p>                                                            |
| 森高会長             | <p>ありがとうございました。それでは、令和6年度第1回市川市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を終了いたします。</p>                        |

(午後0時00分閉会)

市川市社会福祉審議会地域福祉専門分科会  
会長 森高 伸明